

# BUSINESS REPORT

第40期 決算報告 2011年6月1日 ▶ 2012年3月31日

Japan  
Medical  
Dynamic  
Marketing,  
INC.

*Top Interview*

## 新中期経営計画 「NEW MODE」スタート

当社は、2012年3月期より決算期を毎年5月31日から毎年3月31日に変更しております。これに伴い、決算期変更の経過期間となる2012年3月期は10か月決算となっております。

## Mission Statement

経営理念

Japan  
Medical  
Dynamic  
Marketing,  
INC.

### Medical

「医療に貢献する」という企業ポリシーを貫き、世界の人々の健康のために商社とメーカーの特徴をバランスよく発揮しています。

### Dynamic

医療業界に広く、深く関わりながら、力強い事業展開を進め、オリジナル製品の開発にも多くの情熱を注いでいます。

### Marketing

めまぐるしく進化する医療業界と新しい時代を鋭く見据える広い視野。ニーズを的確にとらえて、事業をワールドワイドに推進します。

## Top Interview トップインタビュー

新中期経営計画「NEW MODE」を  
スタート。初年度は安定的収益基盤の  
確立を図ります。

**Q** 今後の成長戦略についてご説明願います。

**A** 新中期経営計画「NEW MODE」では、  
自社製品比率8割を目指します。

当期は、3か年中期経営計画「New Concept of MDM」の最終年度となりました。「New Concept of MDM」では、高収益体質への転換を目指し、「メーカー機能強化」「商社機能強化」「海外事業拡大」「物流機能強化」「人材強化」の5つのテーマを推進してきました。計画当初に掲げた業績目標値のいくつかについては未達となりましたが、米国子会社 Ortho Development Corporation 社（以下、「ODEV 社」）との自社製品の共同開発・製造・販売体制を確立しつつ、株式会社オーミック（以下、「オーミック社」）、ナカシマメディカル株式会社及びカールストルツ・エンドスコープ・ジャパン株式会社との新規販売契約の締結を通じて他社製品の導入を拡充するなど、定性目標については順調な成果を残せたも

代表取締役社長

大川 正男

## 連結業績ハイライト

当社は、2012年3月期より決算期を毎年5月31日から毎年3月31日に変更しております。これに伴い、決算期変更の経過期間となる2012年3月期は10か月決算となっております。

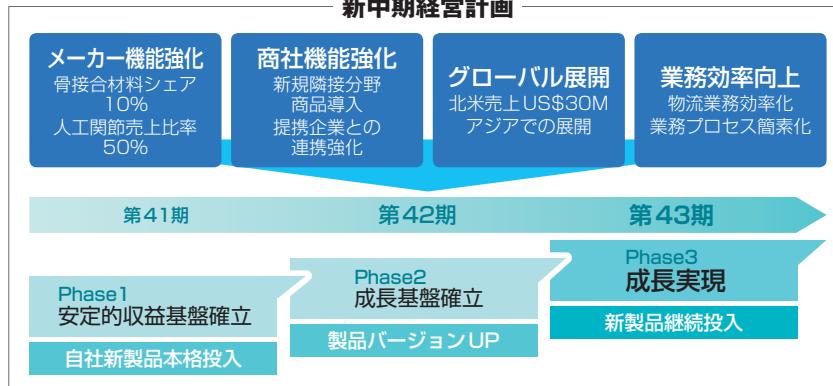
のと捉えています。なお、自社製品として骨接合材料6品目につき、薬事承認取得及び上市を果たし、本年4月から順次全国販売を開始しており、他に販売提携商品とあわせてジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社メディカルカンパニー（以下、「ジョンソン・エンド・ジョンソン社」と）の販売提携契約終了に対する備えは整いました。

自社製品売上高比率は、計画目標の40%に対して40.9%を達成し、海外売上高比率は、計画実施前（第37期）の13.8%から17.7%に拡大しました。また、たな卸資産残高や有利子負債残高は大きく減少し、財務体質は大幅に改善しました。

そして、本年4月より新中期経営計画「NEW MODE」を公表しました。「NEW MODE」は第43期（2015年3月期）を最終年度とする3ヵ年計画で、独自性追求と日米共同開発の推進により、グローバル市場における存在感を築いていきます。最終年度の連結業績目標として、売上高124億円、営業利益22億5千万円（営業利益率18%）、経常利益21億円を掲げるとともに、自社製品売上高比率を80%に引き上げ、純有利子負債残高はマイナス10億円のキャッシュ・リッチを目指します。

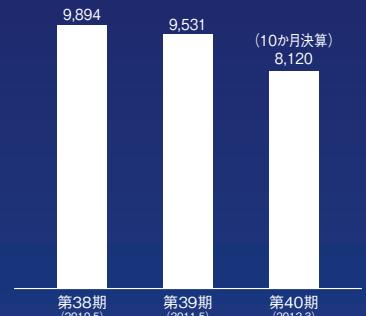
「NEW MODE」では、これまでの成長テーマを引き継ぎ、「メーカー機能強化」として全品目分野で20以上の新製品開発・投入を行う一方、「商社機能強化」については、整形外科医療機器など先端・隣接分野への注力を図ります。また、「グローバル展開」では、北米市場への更なる攻勢と並行して、中国を中心とするアジア新興国市場への進出を開始します。

### 新中期経営計画



### 売上高

(百万円)



### 自社製品売上高

(百万円) (%)



### 海外売上高\*

(百万円) (%)

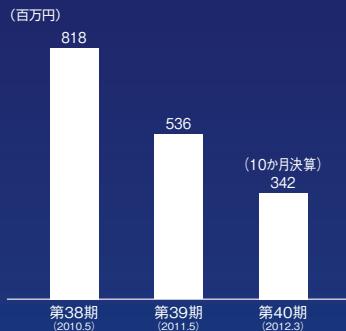


\*ODEV社の決算末日は3月31日であり、海外売上高についてはODEV社の4月1日～翌年3月31日の12ヶ月間の販売実績を掲載しております。

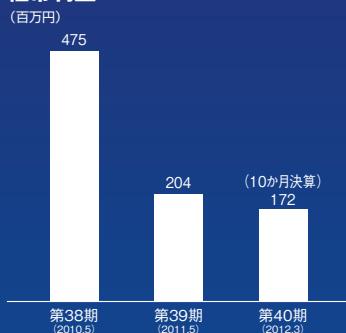
## Financial Highlights

当社は、2012年3月期より決算期を毎年5月31日から毎年3月31日に変更しております。これに伴い、決算期変更の経過期間となる2012年3月期は10か月決算となっております。

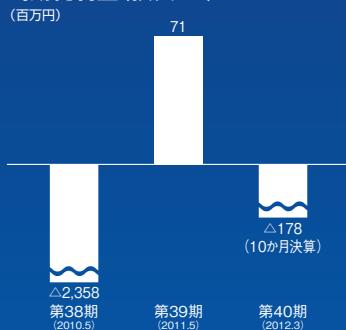
### 営業利益



### 経常利益



### 当期純利益 (損失:△)



**Q** 当期の営業状況と成果についてお聞かせください。

**A** 前年同期比で売上横ばいを維持したものの、特別損失計上により当期純損失となりました。自社製品として骨接合材料6品目につき、薬事承認取得及び上市を果たし、本年4月から順次全国販売を開始しております。

決算期変更により、当期は2011年6月1日から2012年3月31日までの10か月決算となりましたので、連結業績を前年同期(2010年6月1日から2011年3月31日)と比較しますと、売上高は0.4%減とほぼ横ばいを維持し、営業利益は12.1%減、経常利益は77.0%増、当期純損失は178百万円となりました。

売上高は、国内では前年同期比0.7%増の拡大を果たすことができ、また、米国では現地通貨(US\$)ベースで同2.5%増と成長を維持することができましたが、円高による円貨換算額の目減りから同7.7%減となりました。品目別では、ODEV社製の人工関節が堅調に推移し、骨接合材料もオーミック社製「OMフェモラルネイル」が大きく伸張しましたが、脊椎固定器具は競合他社による新製品投入の影響を受け、低迷しました。

利益面では、償還価格の引き下げの影響等による売上原価率の上昇と取引先倒産による貸倒引当金繰入額の計上が営業利益の減少要因となりましたが、為替差損が前年同期よりも減少したため、経常利益は増加しています。そして、ジョンソン・エンド・ジョンソン社との販売契約終了(2012年6月)に伴う同社商材の評価損と、同専用医療工具を含む固定資産除却損を特別損失に計上した結果、最終赤字となりました。

※本文中の前年同期比につきましては、当期業績と前年同期(2010年6月1日から2011年3月31日までの10か月決算)の数値との比較となります。P2及びP3のグラフとは異なりますのでご注意ください。

**Q** 次期(第41期)の見通しについてはいかがですか?

**A** 新中期経営計画の初年度として安定的収益基盤を確立。増益を見込んでいます。

新中期経営計画「NEW MODE」では、各年度を「安定的収益基盤確立」「成長基盤確立」「成長実現」の3つのフェーズで捉え、戦略を推進していきます。計画初年度となる次期は、国内市場への自社新製品投入による売上増を図り、特に新たな骨接合材料で安定的収益基盤を確立していきます。また、人工関節については慢性疾患分野への積極展開を行います。

北米市場においても自社新製品の投入を進めていきますが、足元で新規顧客の獲得が進んでおり、既存品の販売拡大が期待できる状況です。

当期の連結売上高に占めるジョンソン・エンド・ジョンソン社商材の割合は約30%となっており、次期の時点では、販売契約を終了するそれらの商材全てを代替製商品で補填することは難しいと思われませんが、自社製品を主とする代替が進むことで原価が大幅に低減し、利益が改善する見通しです。

以上により、次期の連結業績は、売上高95億円、営業利益7億円、経常利益5億5千万円、当期純利益2億6千万円と増益を予想しています。

**Q** 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

**A** 現在の転換点から将来の発展を実現し、皆様のご期待に応じてまいります。

当期は赤字決算を余儀なくされましたが、今回の期末配当については、安定配当による還元方針を優先し、従来同様の1株当たり5円を実施させていただきました。次期配当についても同額を予定していますが、今後、計画通りの増益を果たせた場合は、配当の更なる充実を検討いたします。

当社は今、将来の発展に向けた転換点に立っています。かつての骨接合材料を中心とした事業から、より幅広い領域への展開にシフトし、その製品を自社で開発・製造しつつ、海外市場を舞台に拡大していくための準備を整えました。全役員・従業員が一丸となって将来の発展を実現し、株主の皆様のご期待に応じてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## 骨接合材料 売上高3,405百万円

**骨** 接合材料分野は、最も成長性の高い大腿骨近位部骨折用髓内釘市場において、新製品「OMフェモラルネイル」の売上が引き続き順調に伸張したことにより、3,405百万円の売上高となりました。

また、当社は米国子会社ODEV社と共同で「日本人患者の骨格体型に合致し、日本人医師ニーズを満たす製品の提供」というコンセプトで多数の医師の協力を得て、日本人骨格データの分析を行い、日本人骨格体型に合致した骨接合材新製品の開発を完了させました。

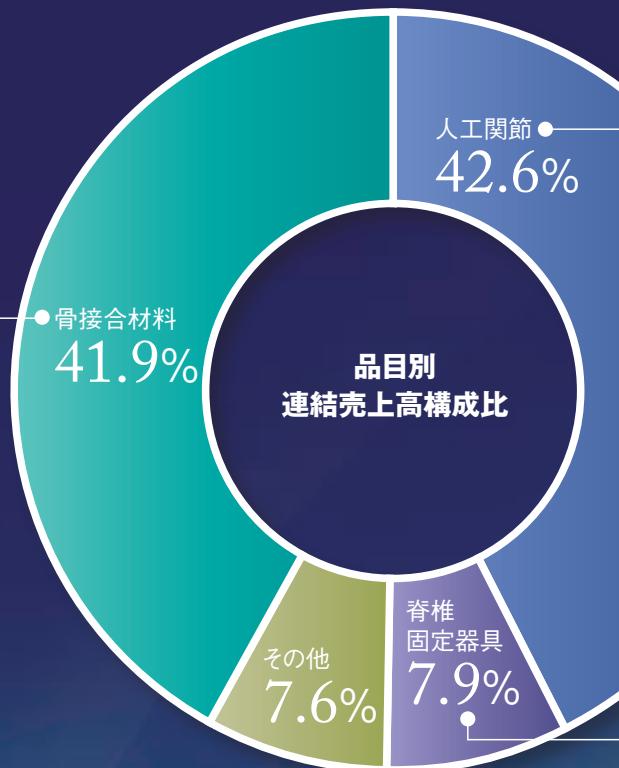
売上高推移  
(百万円)



### 主な製品のご紹介

#### 「OMフェモラルネイル」

「OMフェモラルネイル」は、大腿骨近位部骨折をターゲットとし、「日本人向けに日本で開発された商品」、日本人の小柄な体型に合わせてコンパクトに作製された手術器械で、患者様への手術のあらゆる負担を最小限に抑えられる商品です。老年者に多く見られる大腿骨近位部骨折は、約120億円の市場規模となっており、今後毎年10%以上の成長が見込まれると予想されます。



### 品目別連結売上高

(単位：百万円)

	第39期(前期)	第40期(当期)
骨接合材料	4,127	3,405
人工関節	3,701	3,455
脊椎固定器具	951	641
その他	750	618
合計	9,531	8,120

当社は、2012年3月期より決算期を毎年5月31日から毎年3月31日に変更しております。これに伴い、決算期変更の経過期間となる2012年3月期は10か月決算となっております。

## 人工関節 売上高 3,455 百万円

人工関節分野は、従来製品に加えて、新たなコンセプトで開発した人工股関節新製品「オベーションヒップシステム」をラインナップに加えたことにより国内売上が伸張したこと、米国子会社ODEV社の米国販売が引き続き順調に伸張したことにより、3,455百万円の売上高となりました。



### 主な製品のご紹介 「オベーションヒップシステム」

当社グループが開発した人工股関節新製品「オベーションヒップシステム」は、骨温存型システムデザインを採用し、日本人の生活様式などを考えた開発を行いました。人工股関節置換術に用いられるステムは、患者様の大腿骨に挿入されて骨や関節の機能を代用します。ステムを大腿骨に挿入するために切除する骨の量をなるべく少なくするように、厚みを薄くデザインしたステムが、高い評価を受けております。初回手術においてより多くの骨を残すことが可能となり、将来の再置換術がより安全に行えるなど、患者様にとって大きなメリットがあると考えられています。



## 脊椎固定器具 売上高 641 百万円

脊椎固定器具分野は、国内販売が392百万円となり、米国子会社ODEV社の米国販売が248百万円となったことにより、641百万円の売上高となりました。



### 主な製品のご紹介 「パスファインダー」

「パスファインダー」は、脊椎固定における最小侵襲を可能にしたシステムです。単椎間から多椎間まで幅広い症例に対応可能であり、手術中の操作が進歩しているのが特徴となっています。



# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当期末 2012年3月31日現在	前期末 2011年5月31日現在
<b>資産の部</b>		
● 流動資産	10,864	11,062
固定資産	6,732	6,763
有形固定資産	4,623	4,895
無形固定資産	117	132
投資その他の資産	1,991	1,735
資産合計	17,596	17,825
<b>負債の部</b>		
流動負債	5,437	5,420
固定負債	959	836
負債合計	6,397	6,257
<b>純資産の部</b>		
株主資本	11,188	11,498
資本金	3,001	3,001
資本剰余金	2,587	2,587
利益剰余金	5,625	5,935
自己株式	△26	△26
その他の包括利益累計額	11	69
純資産合計	11,199	11,567
負債・純資産合計	17,596	17,825

(注) 記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

### 棚卸資産の推移

仕掛金が76百万円増加した一方、商品及び製品が395百万円減少したこと等により、5,861百万円となりました。

中期経営計画の目標値である4,880百万円には届かなかったものの、3年間で約52%の削減に成功し、効率的な運用ができる財務体制を構築しております。



## 連結損益計算書

(単位：百万円)

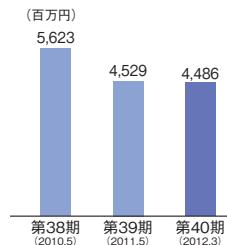
科目	当期 2011年 6月 1日から 2012年 3月31日まで	前期 2010年 6月 1日から 2011年 5月31日まで
売上高	8,120	9,531
売上原価	3,231	3,748
売上総利益	4,889	5,782
販売費及び一般管理費	4,547	5,246
営業利益	342	536
営業外収益	34	48
営業外費用	204	380
経常利益	172	204
特別利益	0	22
特別損失	527	75
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	△354	151
法人税等合計	△175	87
少数株主損益調整前当期純利益 又は少数株主損益調整前当期純損失(△)	△178	63
少数株主損失(△)	—	△7
当期純利益又は当期純損失(△)	△178	71

(注) 記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

### 有利子負債の推移

長期借入金が129百万円増加した一方、短期借入金が171百万円減少したこと等により、4,486百万円となりました。

中期経営計画の目標値である4,420百万円に近い数値まで削減しており、財務体質の健全化は着実に進んでおります。



## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当期	前期
	2011年 6月 1日から 2012年 3月31日まで	2010年 6月 1日から 2011年 5月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,238	1,742
投資活動によるキャッシュ・フロー	△863	△815
財務活動によるキャッシュ・フロー	△178	△1,131
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8	△9
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	188	△213
現金及び現金同等物の期首残高	2,102	2,316
現金及び現金同等物の期末残高	2,290	2,102

(注) 記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

## 営業活動によるキャッシュ・フロー

減価償却費が673百万円、固定資産除売却損が431百万円及び棚卸資産の減少額が326百万円あったことから、1,238百万円のネット入金額となりました。

## 投資活動によるキャッシュ・フロー

医療工具類等の有形固定資産の取得による支出826百万円などから、863百万円のネット支払額となりました。

## 財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金による資金調達300百万円、一方、短期借入金の減少額が179百万円、長期借入金の返済額が165百万円及び配当金の支払による支出132百万円などから178百万円のネット支払額となりました。

## 連結株主資本等変動計算書 (2011年6月1日から2012年3月31日まで)

(単位：百万円)

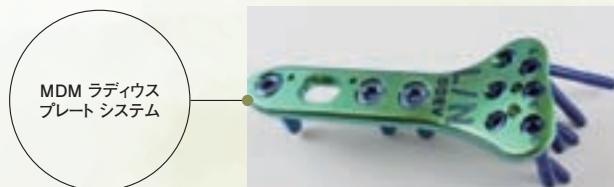
	株主資本				株主資本合計	その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	3,001	2,587	5,935	△26	11,498	0	68	69	11,567
当期変動額									
剰余金の配当			△132		△132				△132
当期純損失(△)			△178		△178				△178
自己株式の取得				△0	△0				△0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						0	△58	△58	△58
当期変動額合計	—	—	△310	△0	△310	0	△58	△58	△368
当期末残高	3,001	2,587	5,625	△26	11,188	1	9	11	11,199

(注) 記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

当社は、2012年3月期より決算期を毎年5月31日から毎年3月31日に変更しております。これに伴い、決算期変更の経過期間となる2012年3月期は10か月決算となっております。

TOPICS  
1

## MODE 骨接合材新製品をリリース

MDM  
アングルプレート  
システムMDM ラディウス  
プレートシステムMDM  
ストレートプレート  
システム

当社は米国子会社ODEV社と共同で「日本人患者の骨格体型に合致し、日本人医師ニーズを満たす製品の提供」というコンセプトで多数の医師の協力を得て、日本人骨格データの分析を行い、日本人骨格体型に合致した骨接合材新製品の開発を完了させました。

今回、米国子会社ODEV社製造の骨接合材料の薬事承認を取得し、販売を開始しました。左図の製品群は全てODEV社製造の「自社製品」として、当社オリジナルライン「MODE」として販売します。

また、非常に繊細な日本人医師の手術手技を満たすため、手術器械についても長年培ってきたノウハウをもとに、より簡便で確実な手術を行うための手術器械を開発しました。

高齢化が進むことにより骨接合材市場は伸張することが想定される中で、「日本人向け骨接合材料」の投入を機に売上を伸張させ、シェア拡大を図ってまいります。

TOPICS  
2

## カールストルツ・エンドスコーピー・ジャパン社製の関節鏡・内視鏡システム販売開始

2012年1月20日、内視鏡など医療機器の輸出入・販売を行っているカールストルツ・エンドスコーピー・ジャパン株式会社と取引基本契約を締結しました。

本契約締結により、整形外科手術のトレンドである低侵襲手術等に使用する関節鏡システム及び内視鏡システムの販売を開始します。これにより整形外科手術における初期治療からインプラント手術まで幅広い対応が可能となり、更なる事業の拡大を目指します。



関節鏡システム



内視鏡システム

### 会社の概要 (2012年3月31日現在)

商号	株式会社日本エム・ディ・エム
設立	昭和48(1973)年5月28日
資本金	3,001,929,072円
従業員数	223名(男性148名・女性75名)
事業内容	医療機器の輸入販売
所在地	〒162-0066 東京都新宿区市谷台町12番2号

### 役員 (2012年6月22日現在)

代表取締役社長	大川 正男	常勤監査役	小川 康貴
取締役	沼田 逸郎	社外監査役	鈴木 竹夫
取締役	瀬下 克彦	社外監査役	大原 秀三
取締役	近藤 浩一	社外監査役	大石 洋司
取締役	中島 郷希		
社外取締役	白石 裕介		

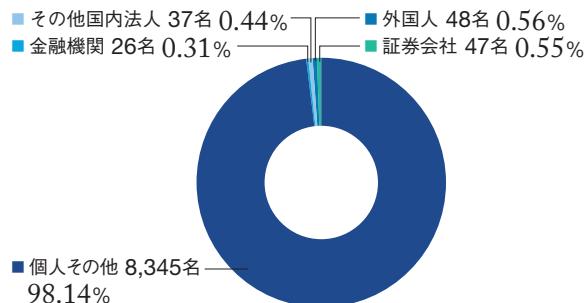
### 株式の状況 (2012年3月31日現在)

発行可能株式総数	37,728,000株
発行済株式の総数	26,475,880株
株主数	8,503名
大株主	

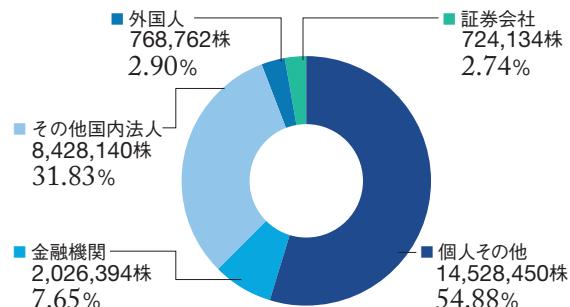
株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
伊藤忠商事株式会社	7,942,764	30.01
渡邊 崇 史	1,444,800	5.45
渡 辺 康 夫	1,012,064	3.82
島 崎 一 宏	893,302	3.37
株式会社アイ・ティー・ティー	396,000	1.49
日下部 博	390,529	1.47
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	347,400	1.31
渡 邊 藍 子	309,644	1.17
日本証券金融株式会社	304,400	1.15
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	298,800	1.12

(注) 1. 持株比率は、小数点第3位を切り捨てて表示しております。  
2. 持株比率は、自己株式(14,013株)を控除して計算しております。

### 株主数構成比



### 株式数構成比



# 株主メモ

## 事業年度

4月1日～翌年3月31日

(2011年8月19日開催の第39回定時株主総会において、事業年度を6月1日～翌年5月31日から上記に変更しております。ただし、第40期は2011年6月1日～2012年3月31日の10か月決算となります。)

## 定時株主総会

6月

## 配当基準日

期末配当 3月31日

## 公告方法

日本経済新聞に掲載いたします。

## 株主名簿管理人

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

## 特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

## 郵便物送付先

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

## (電話照会先)

電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)  
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

## ホームページのご案内



トップページ <http://www.jmdm.co.jp/>



## IR情報

<http://www.jmdm.co.jp/ir>

当社のホームページでは決算情報や適時開示情報、IR資料等を掲載しておりますので是非ご覧ください。